日本農業遺産
Japanese Nationally Important Agricultural Heritage Systems

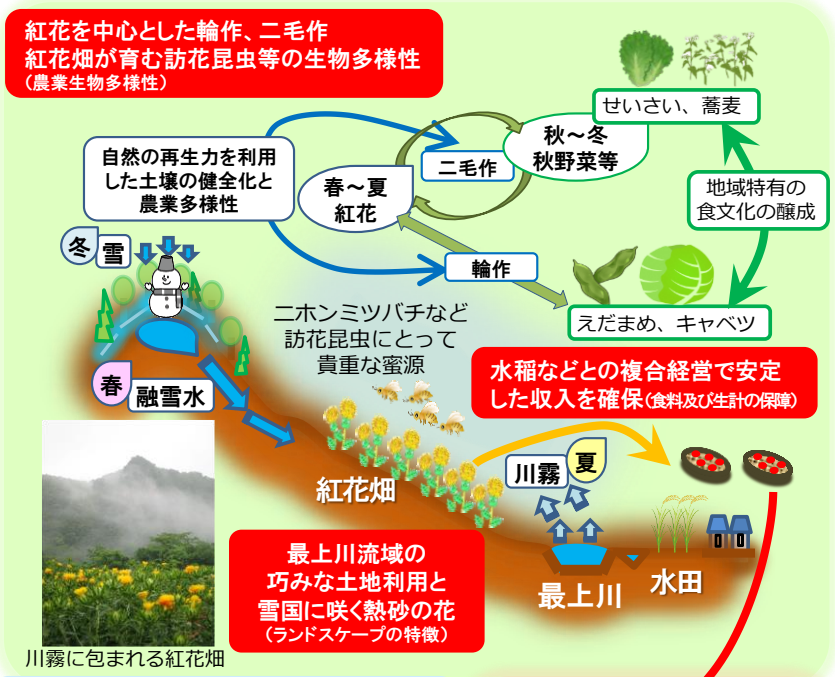
歴史と伝統がつなぐ山形の「最上紅花」

～日本で唯一、世界でも稀有な紅花生産・染色用加工システム～

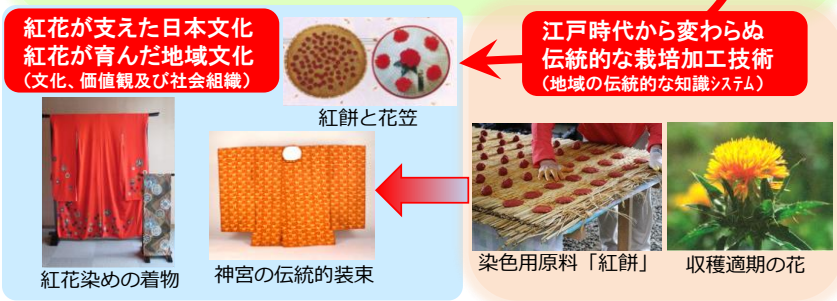
最上川流域の紅花生産と染色用加工技術は、室町時代末期以来約450年の歴史を有し、江戸時代には染色用原料として加工された紅餅が北前船で京都まで輸送され、装束や神事用の染料として利用されました。

当地域では、古来より紅花と他作物を輪作し、複合的な土地利用を行ってきました。紅花は、最上川の川霧を利用して収穫し、花弁を赤の染料である紅餅に加工します。栽培から加工までの一連の技術が継承されており、現在でも紅花は地域において重要な位置づけにあります。

紅花は最上山形の産をもって最良となす



川霧に包まれる紅花畑



紅餅と花笠
紅花染めの着物
神宮の伝統的装束
染色用原料「紅餅」
収穫適期の花

紅花染めの色
左から薄紅色、一斤染、中紅、桃色、韓紅
最も濃い韓紅は一斤染を３回繰り返し

日本農業遺産認定地域

日本農業遺産認定による効果（取組状況）

紅花生産の拡大

- 栽培研修会の開催による新たな担い手の育成
- 熟練者「紅花マイスター」による新規生産者への技術指導
- 技術の継承と高度化のための生産工程管理マニュアルの作成
- 栽培拡大拠点圃の設置や作付支援による栽培面積の拡大
- 農福連携、ボランティアの参画の推進

次世代への継承

- 地域の小中学校における体験学習の機会の創出
- 小中学生向け教材「紅花ブックレット」の制作
- 小学生向け紅花栽培リーフレットの制作
- 高校生等による探究学習の支援

地域振興・魅力発信

- 紅花を使ったお菓子等の開発
- 一般市民向けハンドブック「紅花読本」の制作
- シンポジウム、市民講座による地域住民への魅力周知
- 商談会への出展による販路の拡大

環境保全

- 昆虫調査による生物多様性の継続的なモニタリング
- 希少植物の植生の実態調査
- 紅花の遺伝資源を集めたジーンバンクの運営